

日本 DMAT 隊員養成研修に参加しました (2018/12/3-6)

テーマ：災害医療、災害派遣医療チーム (DMAT)

会場：国立病院機構災害医療センター、内閣府災害対策本部予備施設 (立川防災合同庁舎内、東京都立川市)

2018年12月3日～6日の4日間、東京都立川市の国立病院機構災害医療センターおよび内閣府災害対策本部予備施設 (立川防災合同庁舎内) において、平成30年度第7回日本DMAT隊員養成研修が開催され、稲葉洋平助教 (災害医学研究部門 災害放射線医学分野) が参加しました。DMAT (Disaster Medical Assistance Team; 災害派遣医療チーム) は、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期 (おおむね48時間以内) に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームで、阪神淡路大震災を契機に設立されました。1チーム医師1名・看護師2名・業務調整員1名の計4名を基本単位とし、本部活動、広域医療搬送、病院支援、地域医療搬送、現場活動等を主な活動とします。

今回は日本全国から70名程度の受講者がおり、稲葉助教は宮城の業務調整員 (ロジスティクス; 通称ロジ) として4日間研修を受けました。研修では、災害・救急医療の専門家や災害時に連携する各機関 (救急、消防、警察、自衛隊他) の代表者による講義と机上演習等を朝8時半から夜7時半までみっちり行われました。さらに、筆記・および実技試験 (トランシーバー、衛星電話、EMIS入力、口頭試問) で合格することや広域医療搬送を想定したSCU (Staging Care Unit、航空搬送拠点臨時医療施設) 運営訓練を実際に行うというハードスケジュールでした。SCU実践訓練での稲葉助教は、SCU本部の連絡係を担当し、トランシーバーで様々な機関から入ってくる情報を適切に伝達および共有して本部運営を円滑にすることに努めました。複数のトランシーバーから次々入ってくる情報を捌かなければいけない状況は、まさに実災害を想定しており、様々な課題を体感することができました。今後、DMAT隊員として厚労省に登録され、次はいよいよ出動となりますので今回の研修で得た知識や技能を維持できるように精進したいと思います。



SCU 実践訓練 (本部運営)



衛星携帯電話の実技試験

文責：稲葉洋平 (災害医学研究部門)